

教育委員会11月定例会 会議録

- 1 開催日時 令和6年 11月 6日(水) 午後3時から午後3時50分まで
- 2 場 所 教育委員会室
- 3 出席委員 教 育 長 丸 山 陽 一
同職務代理者 近 藤 守
委 員 茅 野 理 恵
委 員 山 口 美 和
- 4 説明のために会議に出席した者
教 育 次 長 前 島 卓
教 育 次 長 唐 木 英 俊
教育次長副任兼
総 務 課 長 北 島 克 彦
学校教育課長 佐久間 清 也
保健給食課長 山 口 恭 司
家庭・地域学びの課長 藤 原 慶 治
学 校 支 援 官 酒 井 好 和
総務課長補佐 穂 川 さゆり
- 5 書 記 総 務 課
庶務担当係長 児 島 真 季

丸山教育長が開会を宣した。

<教育長あいさつ>

11月に入り、今年もあと2か月弱となった。めっきりと日が短くなって冷え込みが感じられ、秋の深まりを感じる今日この頃だが、風邪をひかないようお互いに気を付けていきたい。

先月25日に第67回長野県市町村教育委員会研修総会が諏訪市で開催された。御参加いただいた委員の皆様には感謝申し上げます。県内市町村から約400人の皆様に御参加いただき、無事盛会のうちに終了することができた。開催に御尽力いただいた諏訪市教育委員会の皆様には、心から感謝申し上げたい。

先月30日には、長野市において、令和6年度（後期）長野県都市教育長協議会を開催し、県内19市の教育長にお集まりいただいた。教育課題について、情報交換や意見交換等を行い、限られた時間ではあったが、大変有意義な会議となったように思う。

今月1日の新聞報道で各社一面トップとなったが、文部科学省が令和5年度の問題行動・不登校調査結果を公表した。小・中学校の不登校の児童・生徒数が34万6,000人余りで過去最高・最多となった。同時に長野県内の状況も発表されたが、前年比23.1%増の7,060人と、こちらも過去最多を更新している。増加の要因として、教育機会確保法、コロナ禍の影響だとも言われているが、根本的な問題として、不登校を出さない学校の在り方に関して、見直すべきところは見直して、多様な子どもたちを受け入れられるよう、教員の意識も変えていかなければならないと思っている。また、学校外での支援体制について、来年度においてはSaSaLANDを拠点とし、アウトリーチ支援など、様々な体制を充実させてまいりたい。

明後日は教育委員会の行政視察が予定されているので、よろしく願い申し上げます。また、その翌日、9日土曜日には、第103回全国高校サッカー選手権大会長野県大会の決勝が松本市のサンプロアルウィンで開催され、市立長野高校と上田西高校が対戦する。今回、市立長野高校は、昨年負けてしまった強豪、松本国際高校を破っての決勝進出ということで気合が入っている。優勝すれば県代表として3大会ぶりの全国大会出場となる。ぜひ優勝を目指して、選手の健闘を祈りたい。キックオフは12時半ということである。

<協議事項>

協議1号「令和7年度長野市立長野高等学校募集定員について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

佐久間学校教育課長が説明した。

委員 少子化が進んできている時代で、定員160人がいつまでできるか。他の公立高校の状況も踏まえて、そろそろ減少も考えていかなければならないのではないか。

佐久間学校教育課長

来年度以降については、毎年、県教育委員会と協議を行っていくものであるので、現時点では答えようがない。その年々の状況を見て協議していきたい。

委員 子どもの数が減っていくことは間違いなく、毎年右往左往してしまうので、早いところ市立長野高校の将来の姿を見据えて考えてほしい。

丸山教育長

市立長野中学校から他校へ進学する子はいるか。

佐久間学校教育課長

毎年、1～2人など、数人程度である。

委員 通信制高校に行かざるを得ない子もいる。

丸山教育長が諮ったところ、原案のとおり承認された。

<一般行政報告>

報告1号「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

佐久間学校教育課長が説明した。

委員 不登校調査は何のために行っているのか。文部科学省は、不登校は問題行動ではないと言っているが、問題行動の数といったように出ている。また、不登校の基準が30日という根拠がよく分からない。極端な話、どの学校も不登校特例校となれば、問題行動ではないので、不登校はゼロということになる。先日新聞にも記事が出ていたが、学校の在り方自体を変えていかなければならない。数値を何のために出しているのか。これで学校に対するイメージが悪くなったら何にもならない。平成18年に今の教育基本法ができて、多様な子どもたちに対応できるよう様々な政策が出てきたが、学校に通わせる義務を果たすことができていない家庭もあり、家庭との関係が難しくなっている。特に低学年でこれだけの不登校者が出てきているということは、学校に対するイメージと学校の在り方自体を変えていくことをもっと論議していく必要があるのではないかと思う。

丸山教育長

30日という基準の詳細は分かりかねるが、年間の登校日数約200日あるので、30日学校に行っていないなくても、登校した日の方が多いが、その場合も不登校のくくりに入ってしまうのが納得できないところである。

佐久間学校教育課長

同感である。病気や経済的な理由によるものを除いてとなっているが、裏を返せば、腹痛や頭痛など、ちょっとした体調不良による欠席でもすぐに30日を超えてしまう。病気とする扱いも長野市は他県、他市と異なっているようで、例えば長野県では病気の割合が12.9%であるが、長野市では5.8%しかない。多い県では病気が30%となっており、どうやら不登校に含めていないようである。ただ、長野市だけみれば、病気とするカウント方法は変えていないので、欠席日数が30～49日の児童・生徒数は特に増加傾向にある。

丸山教育長

学校に全く行っていない訳ではない、行き渋りの子が増えたということか。

唐木教育次長

例として、月4日休むとすると年間48日となり、週5日のうち1日休むだけで不登校児童に含まれてしまう。そういう傾向もあるが、少し休んで気持ちを整えようという理解が深まっていることも背景にあるかと思う。

委員 休んでもよいという気持ちが増えてきており、それはそれで大事なことではあるが、不登校の児童・生徒が市民権を得てしまっている。不登校は問題行動ではないと言いながら、問題だと取り上げ、趣旨に矛盾が生じているように思う。県には、不登校という文言を変えた方が良いのではないかと提案している。また、長野市は真面目に捉え過ぎているのではないか。

唐木教育次長

要項に書いてあるが、病気としてカウントする基準をどう読み解くかというも問題がある。事案が挙がってきた際に、病気には該当しないのではないかという方

向で誠実にカウントしている部分はある。入院や自宅療養などの医師や保護者の診断や判断まではいらなくても、病気の扱いはハードルが高いので、他の自治体とズレが生じているのかもしれない。

委員 少し無意味に思ってしまうのが、不登校と病欠による子どもの数の都道府県ランキングを比べると、反比例となっていて、足すと同じ数という状態である。都道府県によって子どもの病気の発生率が大きく変わる訳はなく、長野県は不登校数が高く、それに対して病欠が35位ほどである。

委員 30～49日欠席している児童・生徒の学年別の内訳を知りたい。低学年が多くなっているのであれば心配である。

唐木教育次長

小学校では、1、2年生が少し増加傾向である。

丸山教育長

1、2年生でそういった習慣になってしまうと、学年が上がっても、登校するのがなかなか難しくなってくるのではないかと。

委員 一方で、最近、体力低下によるこんなケースがあった。学校まで荷物を背負って歩いていくのが大変で、週1日ほど休んでいたが、体力が付いてからは休むことなく登校するようになった子がいた。起立性がどうか言われている背景には、運動量の不足や体力低下の影響があるのではないかと。

委員 小さい頃に思い切り遊んで、気付いたら寝ている、などという経験が少なくなってきた。

委員 保護者が車で送迎してくれないと行かないといったケースもあるかもしれない。

委員 小学校1年生になって、急に勉強にシフトするのではなく、特に低学年では、もっと遊び、楽しく仲間と過ごしてほしい。先生も高年齢化が進み、子どもたちと思い切り遊べない場合もあるかもしれない。

委員 それはあるかもしれない。先生と遊ぶという感覚がない子も多いのではないかと。

委員 長野市のスタートカリキュラムはどのようになっているか。4、5月の慣らしの時期に、小学校で何か柔軟に行っていることはあるか。

唐木教育次長

接続期のカリキュラムについては大きな変化はないが、毎年、子どもたちの姿を見ながら学校と見直しを行っている。そういったカリキュラムがある一方で、現実的にはきちんとやっているかどうかは、担任の先生による差はあるかもしれない。

委員 全国的に最初の1か月くらいは、かなり柔軟に時間を使い、時間割どおりではなく、朝、登校してから少し慣らす時間をつくるなどというケースも増えてきているが、担任の先生によって違っているとすると、子どもにとって負担になる可能性もある。

委員 現実論として、再任用の先生は、年齢的に体力もなく、一緒に遊ぶことが大変な場合もあるかもしれない。教員不足もあり、難しいところである。また、遊び回るとすぐに学級崩壊と言われてしまう時代なので、席に着いて過ごすようになってしまっているかもしれない。小学校低学年は遊びが大事というイメージがもっと強くなっていくと良いと思う。

委員 先ほどの体力低下の件では、長野市内でも自然保育の認定を取っている園が幾つもある。そういった園に通っていた子とそうでない子で、不登校率に変化があるのか気になる。体力の影響があり、伸び伸び遊んできた子が不登校になりにくいのであれば、もう少し推進できるかもしれない。

委員 難しいのが、伸び伸び過ごしてきた子が、小学校に入り窮屈さを感じてしまい、体力の問題でなく、環境のギャップに苦戦しているケースである。

委員 先生によって違いが出ないようにカリキュラムに変えていかなければならない。

委員 幼児期から小学校への接続の部分では、小学校の先生方も幼児期の学びを理解していく必要がある。

委員 カリキュラムが個別最適化と言われている中、今後どうなっていくか。別の話であるが、10年くらい前は、送迎している中山間地の子どもの方が体力がなかった。昔は2キロメートルほど歩いて通学するのが普通だった。今は、かばんが重いこともいけないようになってきている。

委員 人が少なく一緒に帰る子がいないために、暗闇を一人で歩かせるのが危なくて迎えに行くというパターンもある。

委員 経済的な理由は少ないか。

佐久間学校教育課長

経済的理由での欠席は、小・中学校共にゼロである。また、国内外の長期間の旅行等による欠席は「その他」に分類され何人かいる。

委員 30日以上で不登校となっているが、話を聞いていると90日以上病気でもなく欠席している子は、学校に居づらい子なのではないかと思う。

丸山教育長

在籍しているがインターナショナルスクールに通っている子も、「その他」に分類されているという認識でよいか。

唐木教育次長

そのとおりである。小学1、2年生の19人は、そのような子である。

委員 「不登校」でなく、負のイメージがつかない言い方になるとよいと思う。

丸山教育長

現在の長野市の1,168人という状況は、既に昨年度の上半期の状況を上回っている。来年も確実に増えるのではないかと思う。人数だけが先行して一人歩きしてしまう可能性もある。例えば、骨折して1か月入院するとなった場合はどの理由となるか。

唐木教育次長

その場合は病欠となる。入院・通院が長期にわたる場合は「病気」となる。

前島教育次長

おなか痛い、頭が痛い等の場合はどうなるか。

唐木教育次長

不登校となる。

委員 本当に知りたいのは、今回出た人数の中での本当の行き渋りや不登校の人数。ぜんそくやアレルギー疾患などを含む体調不良の子ではなく、学校が辛い子がどのくらいいるのか。ただ、学校ではどこまでが心因的なものなのか、判断が難しい。起立性調節障害についても、原因は心因的なものだと思っている方が多いが、成長期の体の急激な変化によって症状が出ることもある。学校に行きたくない訳ではない、行けば楽しく過ごせる子もその中に含まれてしまう。

委員 日数で切っていいものかどうか。また、こうして人数を発表することによって理解は広まってきたが、一方で保護者が簡単に学校を休ませるなど、逆の面もあるように感じる。

唐木教育次長

長期欠席者の報告については、2か月ごとに各学校から挙げてもらっている。学

校としてどのように捉えどう対応したか、御家庭がどう考えているかを学校側で記載しており、理由については、中身が透けて見えるようにはなっている。

委員 全国調査と比較するのは別として、学校が変わっていくことを考えるときには、例えば、中学3年生になると学力不振等による不登校者数はどれくらいになるのかなど、透けて見えてきている背景要因が長野市内だけでも共通のものがあれば、対策の取り方が変わってくる。

委員 現在のものだと、一緒くたに不登校となってしまっていて分からない。

丸山教育長

原因が分からなければ対策が立てられないので、透けて見えているものだけでもまとめてもらうと、対策が立てられるのではないか。

唐木教育次長

その原因の特定が難しいところではある。

委員 国が30日という基準を早く改めるべきだと思う。いじめの問題も、認知件数が増えてきたから良いことだとなっているが、今は、いじめと言い出した者勝ちのような、本当にいじめと言えるかどうかというところもある。

唐木教育次長

おっしゃるとおりで、ある一時点から言われた訴えを1つのカウントとすると、実は逆にいじめられていたという話が挙がってくると、認知件数が倍となる。この認知件数は、ある時点のある一定方向で訴えがあったものとなるので、そういった側面もあるのは確かである。

委員 さらにSNSでのいじめがカウントされている。使用年齢がどんどん下がっていき、まだうまく使えない子も多いので、そこでのトラブルも増加する一方である。

委員 関係性の理解をなかなかしようとしないうところがある。いじめられたとなると、それとの関係性について声を大にして言えない時代となってきているので難しい。重大事態については変わらないか。

佐久間学校教育課長

新聞記事によると、令和5年度は長野県で6件、うち長野市が2件となっている。

<その他>

○教育委員会の主催、共催及び後援事業について（北島教育次長副任兼総務課長）
主催事業0件、共催事業0件、後援事業32件（賞状交付0件）

次回以降の日程確認（北島教育次長副任兼総務課長）

12月定例会 11月27日（水）午後3時 教育委員会室

1月定例会 1月8日（水）午後3時 教育委員会室

丸山教育長が閉会を宣した。

令和 年 月 日

会議録署名委員

教育長

同職務代理者

教育委員

教育委員

~~教育委員~~